

Xチーム		1	2	3	4	5	6	7	8	9	R	H	E	B	●●●	Yチーム
6 佐藤	Xチーム	0	0	1	0	0	1	0			2	4	1	S	●●	9 鈴木
4 高橋	Yチーム	1	0	0	0	0	2				3	6	0	O	●	6 田中

5 伊藤
DH 渡辺
3 小林
9 吉田
7 佐々木
8 松本
2 木村
P 林

8 山本
3 中村
DH 加藤
5 山田
7 山口
2 井上
4 斎藤
P 清水

<ひと言解説参考資料>

「みるスポーツ」の中でも、やはりプロ野球
球人気は健在;スポーツ関連の第3
次産業活動指数の動き

平成28年11月経済解析室

平成28年シーズン結果



球団名	勝	負	分	ゲーム差	球団名	勝	負	分	ゲーム差
カープ	89	52	2	優勝	ファイターズ	87	53	3	優勝
ジャイアンツ	71	69	3	17.5	ホークス	83	54	6	2.5
ペイスターズ	69	71	3	2.0	マリーンズ	72	68	3	12.5
タイガース	64	76	3	5.0	ライオンズ	64	76	3	8.0
スワローズ	64	78	1	1.0	イーグルス	62	78	3	2.0
ドラゴンズ	58	82	3	5.0	バッファローズ	57	83	3	5.0

はじめに

- これは平成28年11月2日公表のひと言解説「「みるスポーツ」の中でも、やはりプロ野球人気は健在；スポーツ関連の第3次産業活動指数の動き」の別冊参考資料です。
- ひと言解説の本文はこちらのURLから是非御覧下さい。

http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/hitokoto_kako/20161102hitokoto.html

第3次産業活動 指数から見る

↓↓ 画像をクリックすると「マンガで分かる！第3次産業活動指数」のページに飛びます。

マンガで分かる！ 第3次産業活動指数

就職に
使える！



スポーツ関連産業指数の採用系列

- 第3次産業活動指数は、一次産業、製造業、建設業を除く、各種の第3次産業の様々な供給側データを、産業連関表の付加価値でウェイト付けして指数に加工したもの。
- スポーツ関係については、「プロスポーツ（スポーツ系興行団）」の中に、相撲、ボクシング、プロ野球、サッカー、プロゴルフ（基本的に観客数）の指数がある。
- また、同じ並びに「スポーツ施設提供業」があり、その中に、ゴルフ場、ゴルフ練習場、ボーリング場、フィットネスクラブ（主として施設利用者数）の指数がある。
- 上記で述べた指数は観戦する「観る」スポーツと自分で「する」スポーツとに分けられる。
- 今回は「みる」スポーツの中でもとりわけプロ野球に着目し、指数の動向を確認してみたい。

スポーツ関連産業指数のウェイト

スポーツ関連産業指数のウェイトは以下のとおり。現行のウェイトでは、スポーツ施設提供業のウェイトの方が大きい、指数の変動は、観るスポーツの方が大きい。

観るスポーツ

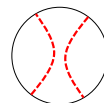
するスポーツ

再編集系列

第3次産業総合(間接法)	10000.0
プロスポーツ(スポーツ系興行団)	42.5
相撲	2.4
ボクシング	2.2
プロ野球	28.7
サッカー	7.5
ゴルフ	1.7
競輪・競馬等の競走場, 競技団	35.3
競輪場	5.4
競馬場	22.1
オートレース場	0.7
競艇場	7.1
スポーツ施設提供業	59.6
ゴルフ場	32.8
ゴルフ練習場	8.6
ボウリング場	2.6
フィットネスクラブ	15.6
スポーツ関連産業	102.1

これはシーズンインとシーズンオフの影響が明らかに出ている。シーズンオフになると指数値、つまり観客数が0に近くなり、シーズンインになると観客数が急増し、スムーズな季節調整を施せない。

第3次産業活動指数で見た推移



プロ野球

年/月	プロ野球 (平均試合数)
2010/1	10
2010/2	10
2010/3	45
2010/4	165
2010/5	195
2010/6	145
2010/7	195
2010/8	165
2010/9	190
2010/10	50
2010/11	15
2010/12	10
2011/1	10
2011/2	10
2011/3	175
2011/4	200
2011/5	155
2011/6	175
2011/7	205
2011/8	210
2011/9	210
2011/10	60
2011/11	10
2011/12	10
2012/1	10
2012/2	10
2012/3	50
2012/4	175
2012/5	190
2012/6	165
2012/7	175
2012/8	210
2012/9	185
2012/10	40
2012/11	10
2012/12	10
2013/1	10
2013/2	10
2013/3	175
2013/4	185
2013/5	160
2013/6	175
2013/7	190
2013/8	205
2013/9	185
2013/10	75
2013/11	20
2013/12	10
2014/1	10
2014/2	10
2014/3	25
2014/4	175
2014/5	185
2014/6	155
2014/7	175
2014/8	220
2014/9	190
2014/10	70
2014/11	10
2014/12	10
2015/1	10
2015/2	10
2015/3	30
2015/4	180
2015/5	200
2015/6	155
2015/7	180
2015/8	225
2015/9	205
2015/10	65
2015/11	10
2015/12	10
2016/1	10
2016/2	10
2016/3	45
2016/4	185
2016/5	220
2016/6	180
2016/7	190
2016/8	240
2016/9	200
2016/10	60
2016/11	10
2016/12	10
2017/1	10
2017/2	10
2017/3	55
2017/4	190
2017/5	220
2017/6	180
2017/7	190
2017/8	240
2017/9	200
2017/10	60
2017/11	10
2017/12	10
2018/1	10
2018/2	10
2018/3	55
2018/4	190
2018/5	215
2018/6	210

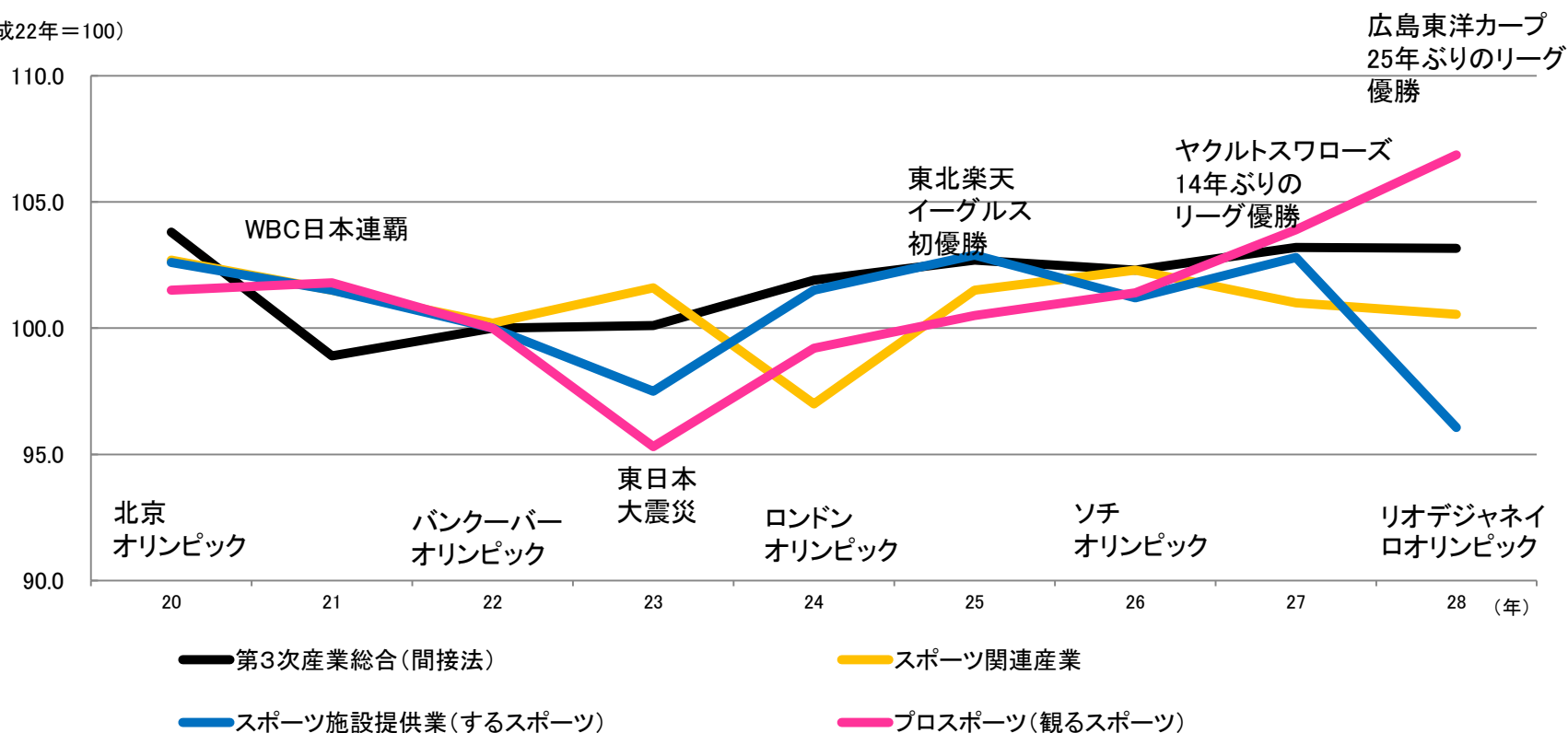
5

スポーツ関連産業指数、暦年の推移

第3次産業活動指数でスポーツに関係している指数を暦年で見ると、観るスポーツ及びするスポーツともに東日本大震災で落ち込んだものの、その後回復している。特に観るスポーツは上昇傾向と言えよう。

第3次産業活動指数で見た推移

(平成22年=100)



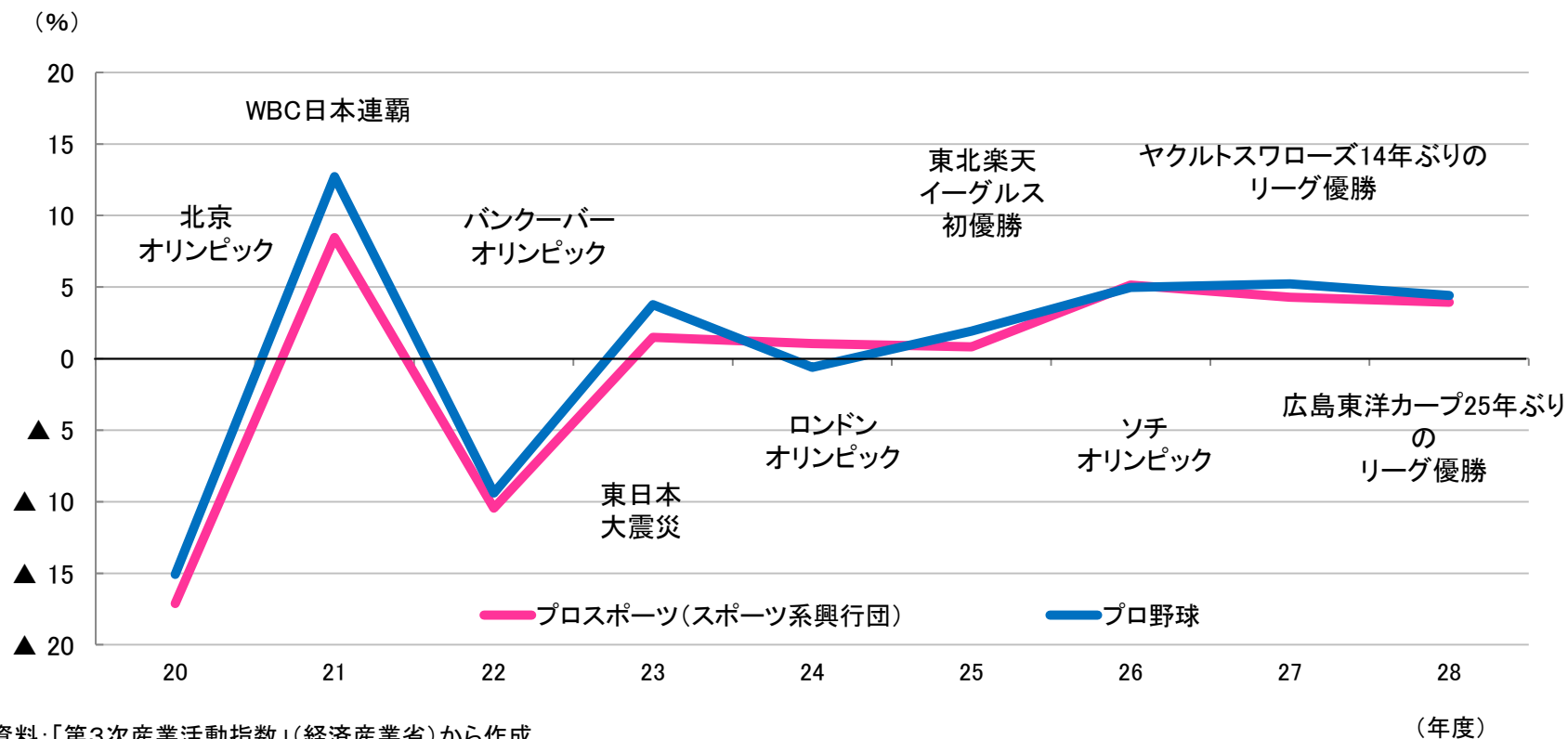
注: 平成28年の数字は1~6月の平均。

資料:「第3次産業活動指数」(経済産業省)から作成。

プロスポーツ、プロ野球の指数の推移

平成20年度からのプロスポーツ指数とプロ野球指数の年度単位の動きを見ると、前年度比では概ね近似した動きをしている。今年8月時点までのデータでは、わずかにプロ野球指数の伸びが大きくなっている。

第3次産業活動指数で見た推移



資料:「第3次産業活動指数」(経済産業省)から作成。

※ 平成28年度は4~8月の前年同期比。

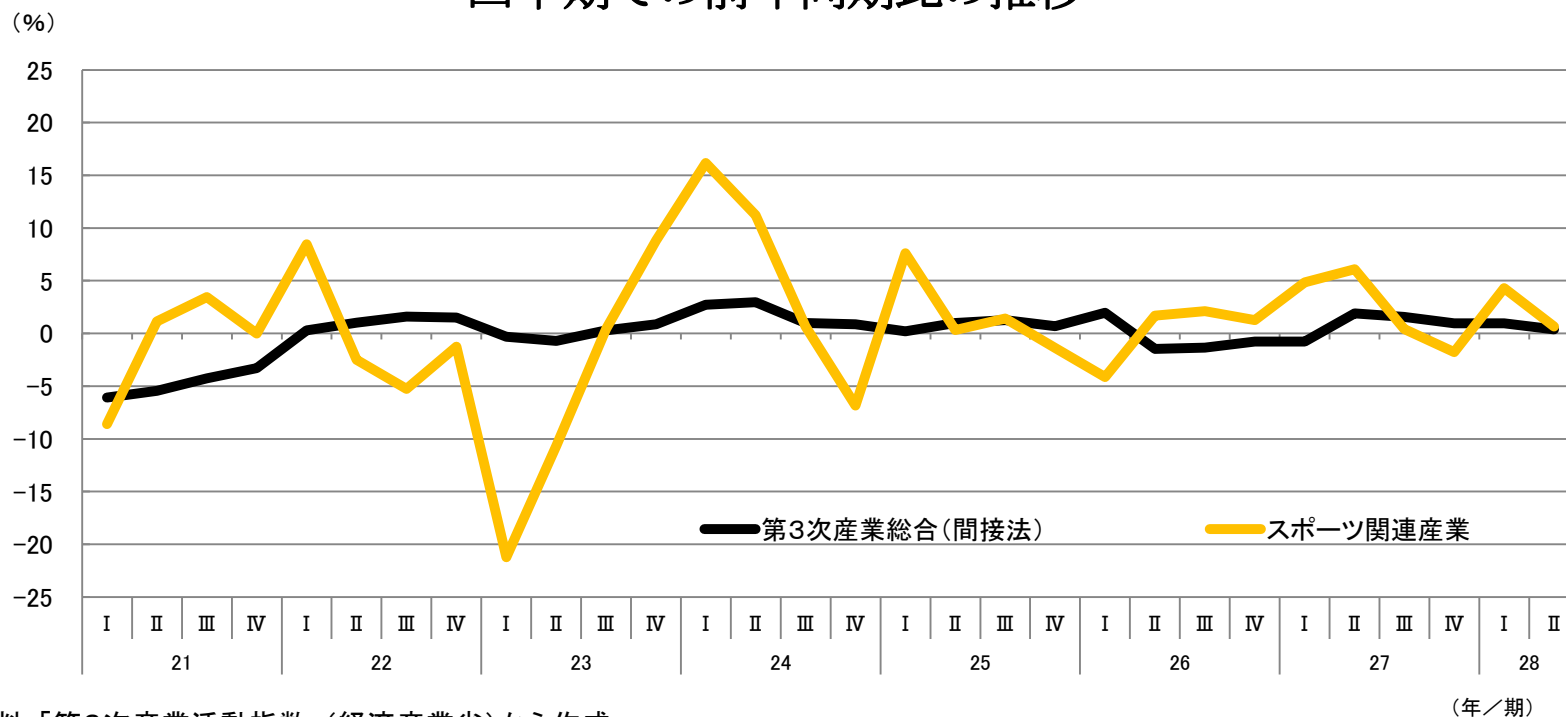
四半期での前年同期比の推移

四半期での前年同期比を見ると、やはり第3次産業総合に比べると、スポーツ関連産業の変動は大きい。

広義対個人サービスの中でもし好性の最も強い性質を有しているものと思われ、少しの条件変更等で大きく上下動する。この点は平成23年第1四半期の落ち込みなどに特に表れている。

よって、スポーツ関連産業指数の前年同期比を見る時は、その前年同期の水準をよく見ておく必要がある。

四半期での前年同期比の推移

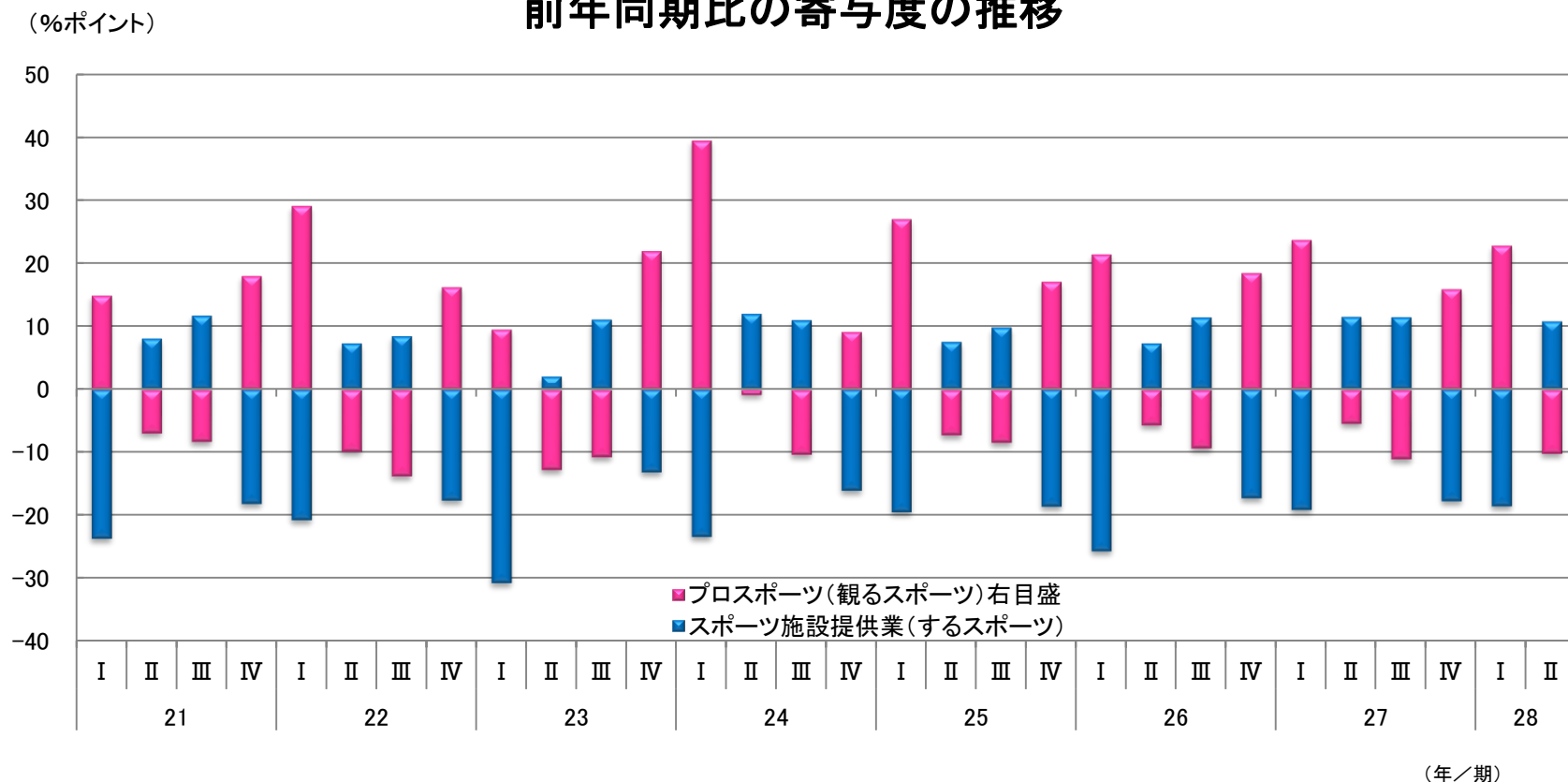


資料:「第3次産業活動指数」(経済産業省)から作成。

前年同期比の寄与度の推移

観るスポーツとするスポーツのスポーツ関連産業指数に対する前年同期比寄与度を見ると、ウェイトが小さいにも関わらず、観るスポーツの寄与が大きく見える。各期の寄与度の平均もするスポーツがマイナス5.3%であることに対して、観るスポーツでは5.9%となり、大きくなっている。

前年同期比の寄与度の推移



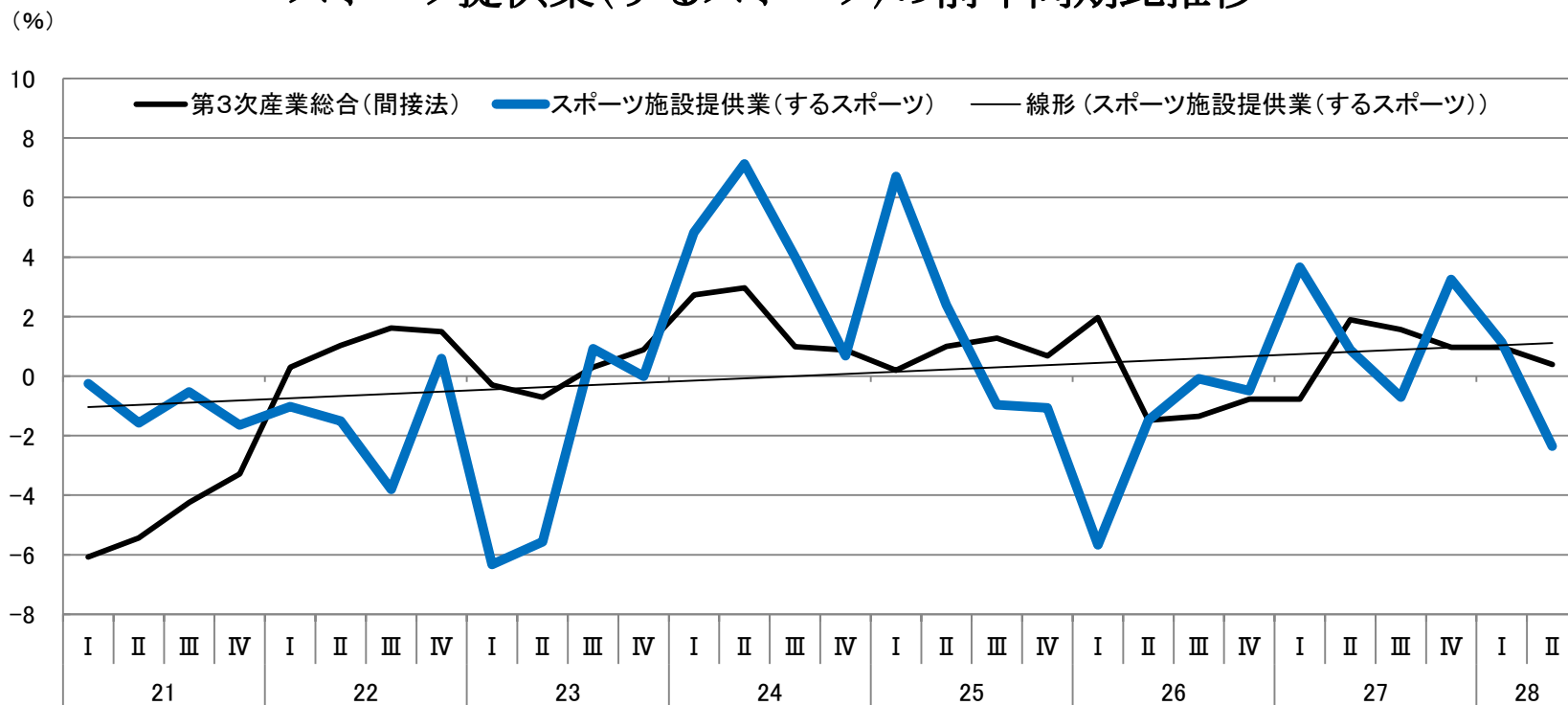
資料:「第3次産業活動指数」(経済産業省)から作成。

スポーツ施設提供業の推移

第3次産業総合は平成22年に入ってから回復してきた一方、スポーツ施設提供業は平成22年第4四半期に上昇になりかけた矢先に東日本大震災が発生し、急落。

その後2年かけて回復してきているが、平成25年から低迷を続け、平成27年第4四半期に上昇したかと思ったら平成28年は低下を続けている。

スポーツ提供業(するスポーツ)の前年同期比推移



資料:「第3次産業活動指数」(経済産業省)から作成。

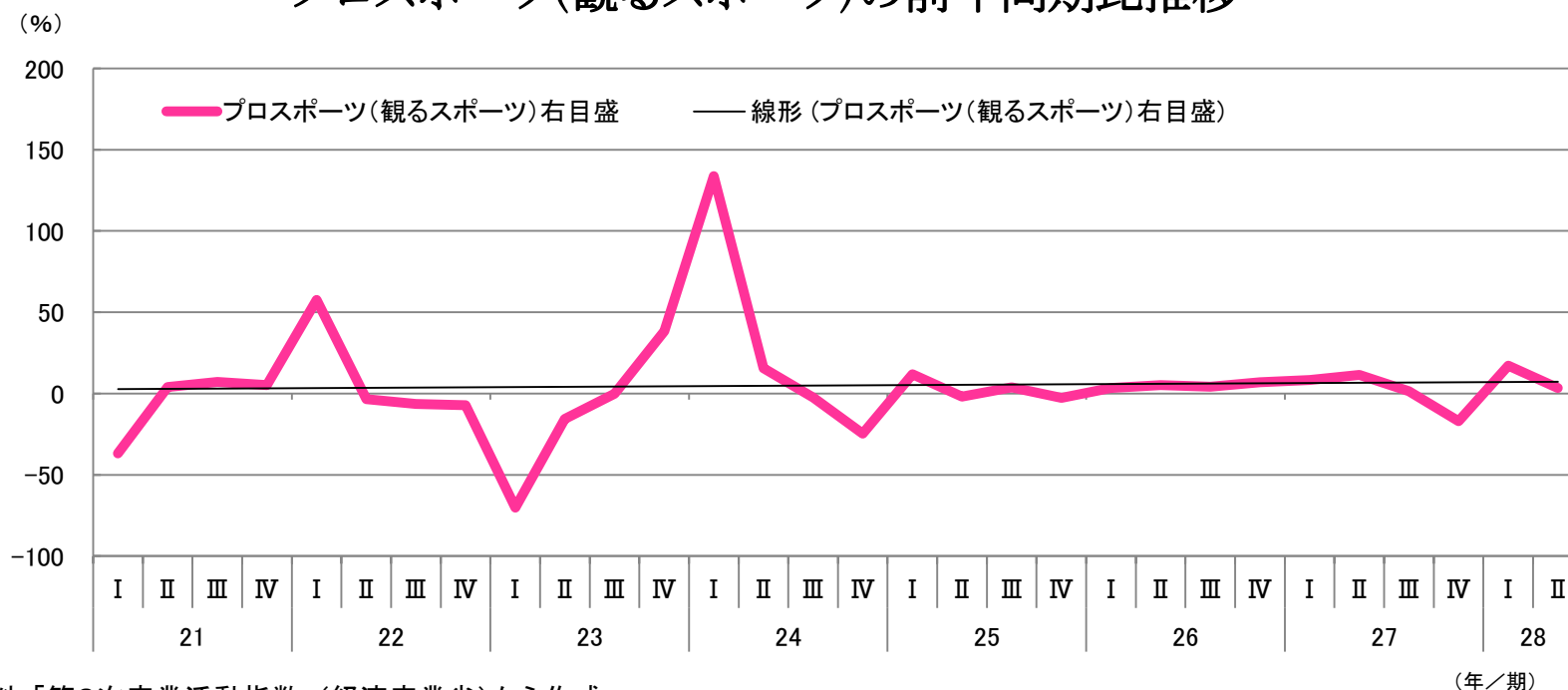
(年/期)

プロスポーツの推移

プロスポーツは前年同期比であるにもかかわらず、非常に変動が大きい（そのため、第3次産業総合のグラフを同じスケールで描けない）。

グラフを見ると、2回極端に前年同期比が上昇する時期がある。平成22年第1四半期については、平成21年にWBCがあり、プロ野球の開幕が完全に4月になったため、平成21年第1四半期の指数値が0となっていることによる。また、平成24年第1四半期については、平成21年3月の大震災のために、3月からのプロスポーツがほとんど開催されなかったことによる。

プロスポーツ(観るスポーツ)の前年同期比推移



資料:「第3次産業活動指数」(経済産業省)から作成。

平成28年第2四半期のスポーツ関連の各指数

平成28年第2四半期のスポーツ関連の各指数を見ると、スポーツ施設提供業が前年同期比低下となったが、プロスポーツが上昇したことにより、スポーツ関連産業指数としては、前年同期比上昇となった。

プロスポーツは、内訳のプロ野球と相撲が好調のようである。

スポーツ施設提供業はフィットネスクラブが唯一上昇となっている。

	ウェイト	原指数	前年同期比
第3次産業総合(間接法)	10000.0	102.3	0.4
プロスポーツ(スポーツ系興行団)	42.5	180.2	3.4
相撲	2.4	107.5	1.3
ボクシング	2.2	85.2	-16.0
プロ野球	28.7	206.9	6.0
サッカー	7.5	147.3	-4.7
ゴルフ	1.7	98.3	-0.5
競輪・競馬等の競走場, 競技団	35.3	113.9	4.4
競輪場	5.4	90.0	-2.9
競馬場	22.1	119.1	5.6
オートレース場	0.7	75.1	-1.3
競艇場	7.1	120.1	5.7
スポーツ施設提供業	59.6	111.9	-2.4
ゴルフ場	32.8	118.9	-4.1
ゴルフ練習場	8.6	97.4	-0.5
ボウリング場	2.6	67.8	-1.6
フィットネスクラブ	15.6	112.6	1.1
スポーツ関連産業	102.1	140.3	0.6

スポーツ産業の動き



- 非常に緩やかながら、第3次産業総合に比べると、拡大基調の産業。
- 外生的なイベントによる影響が強く出る産業であり、災害（天候不順）やそのスポーツの人気度に影響を与える事件、あるいは開催時期のずれなどの影響が強く出る。
- 他方で、鉱工業のみならず、上方トレンドのある第3次産業ですら大きく低下した平成20年の金融危機に起因する世界的な景気後退の時期にも、スポーツ産業は堅調に推移。

プロ野球をグラフ 化して見てみる



プロ野球球団の年間スケジュールについて

プロ野球の大まかな年間スケジュールは以下のとおりである。

1月	自主トレーニング
2月	春季キャンプ
2月下旬－3月	オープン戦
3月	(二軍) 春期教育リーグ
3月下旬－4月上旬	開幕戦(3月下旬－4月上旬)※セ・リーグとパ・リーグが同時に開幕する年もあれば、開幕日を別にする年もある。
5月中旬－6月中旬	セ・パ交流戦
7月下旬	オールスターゲーム、(二軍) フレッシュオールスターゲーム
8月下旬－9月	マジックナンバー点灯
9月中旬－10月中旬	レギュラーシーズン優勝決定で胴上げ 消化試合(レギュラーシーズン順位決定－クライマックスシリーズ開幕) 戦力外通告(10月1日－レギュラーシーズン終了翌日とクライマックスシリーズ終了－日本シリーズ終了直後の2回) みやざきフェニックス・リーグ(二軍)(10月)
10月中旬	クライマックスシリーズ(プレーオフ制度。セ・パ両リーグで統一のプレーオフ／10月上旬－中旬)
10月下旬	ドラフト会議 日本シリーズ(アジアシリーズ日本代表決定シリーズ)
10月下旬－11月中旬	秋季キャンプ
11月上旬－中旬	アジアシリーズ ストーブリーグ(日本シリーズ終了後－翌年1月) フリーエージェント(FA)権の行使(日本シリーズ終了後) 契約更改(日本シリーズ終了後－翌年2月) トレード(日本シリーズ終了後－翌年7月31日) 翌シーズンの日程発表(11月中旬－12月上旬)

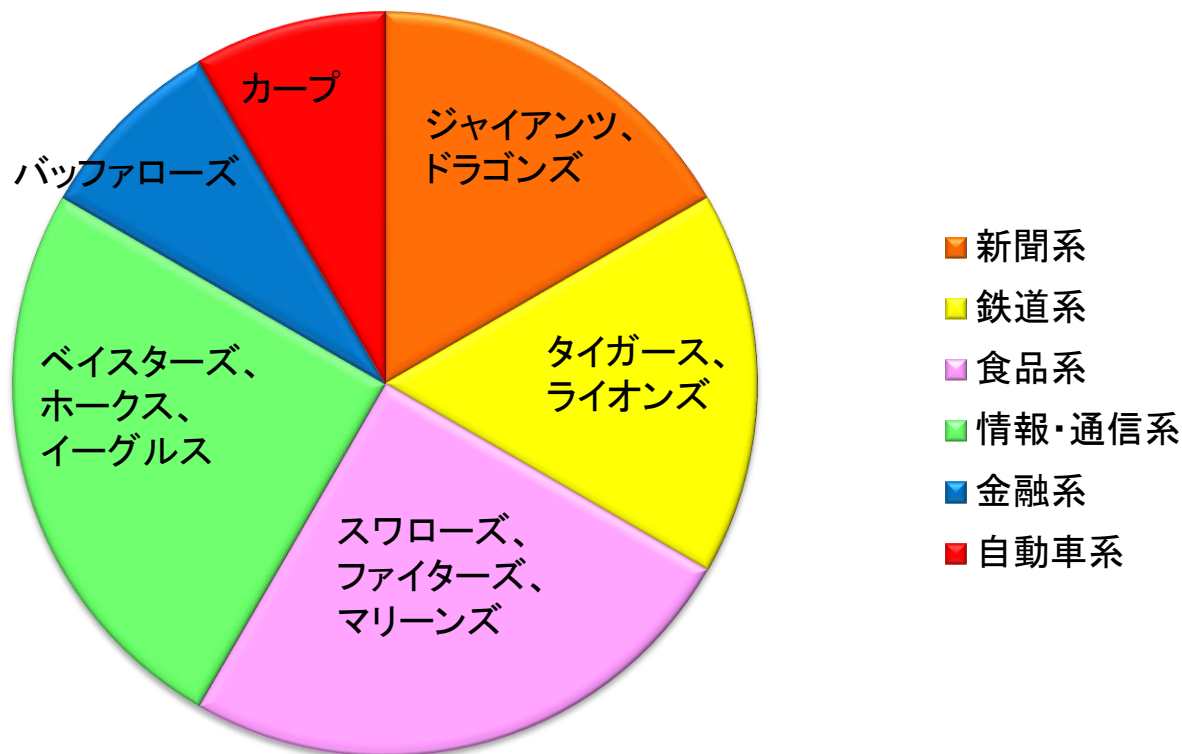
※あくまでもおおよその目安であって、この通りに行くとは限らない。

資料: 各種HPから作成。

プロ野球球団の経営母体について

プロ野球各球団の経営母体について見てみると、新聞系が2、鉄道系が2、食品系が3、情報・通信系が3、金融系が1、自動車系が1となっている。なお、カープは唯一の市民球団でもある。

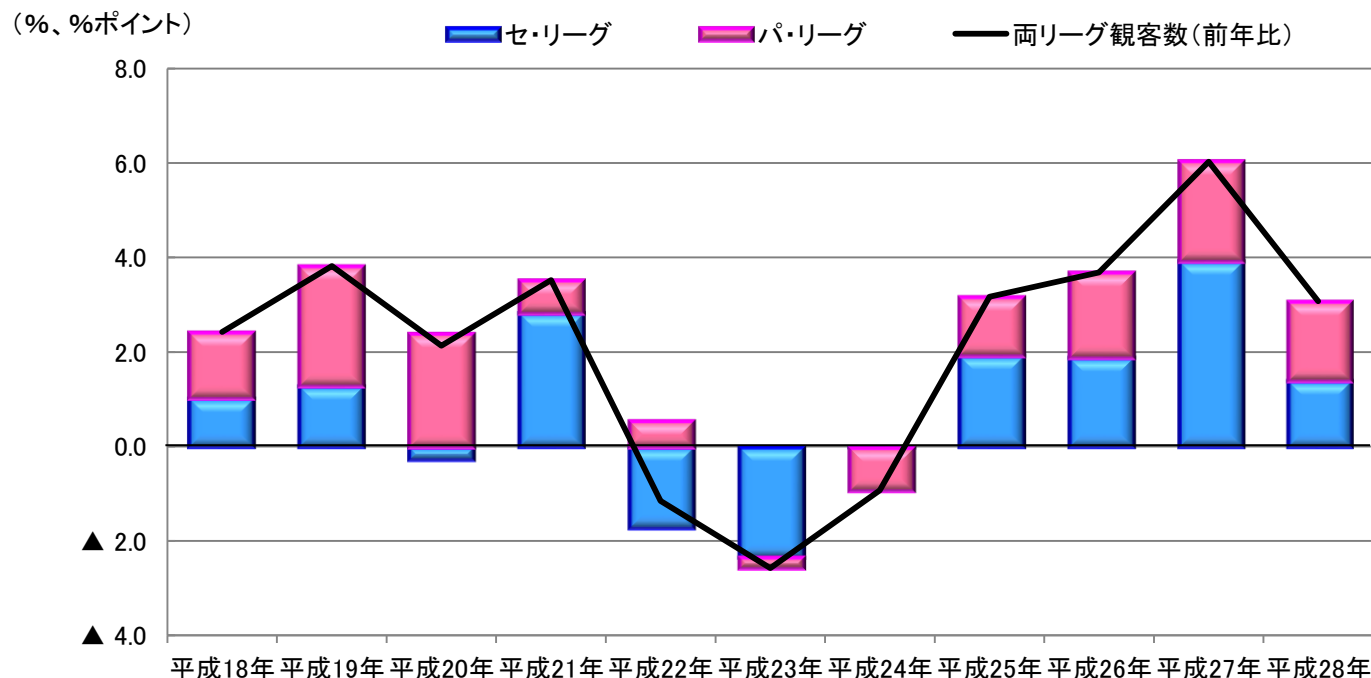
各球団の経営母体



観客数の推移（前年比、寄与度）

平成17年から観客動員数は年々増加しており、平成28年（10月5日までの公式戦終了時のデータ）も前年比はプラスの状況が続いている。パ・リーグでは2年連続で最多観客動員数を更新。「人気のセ、実力のパ」などとも言われるが、観客動員数の前年比寄与を見ると、平成27年には、セ・リーグの方が、暫定的な平成28年には、パ・リーグの増加寄与が多くなっていた。

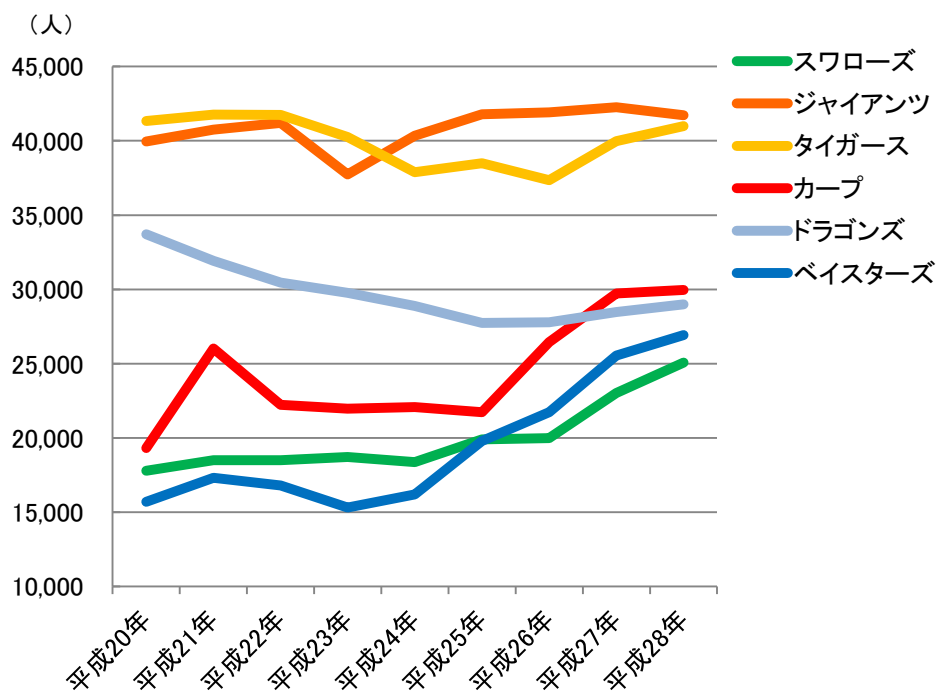
観客数の推移（前年比、寄与度）



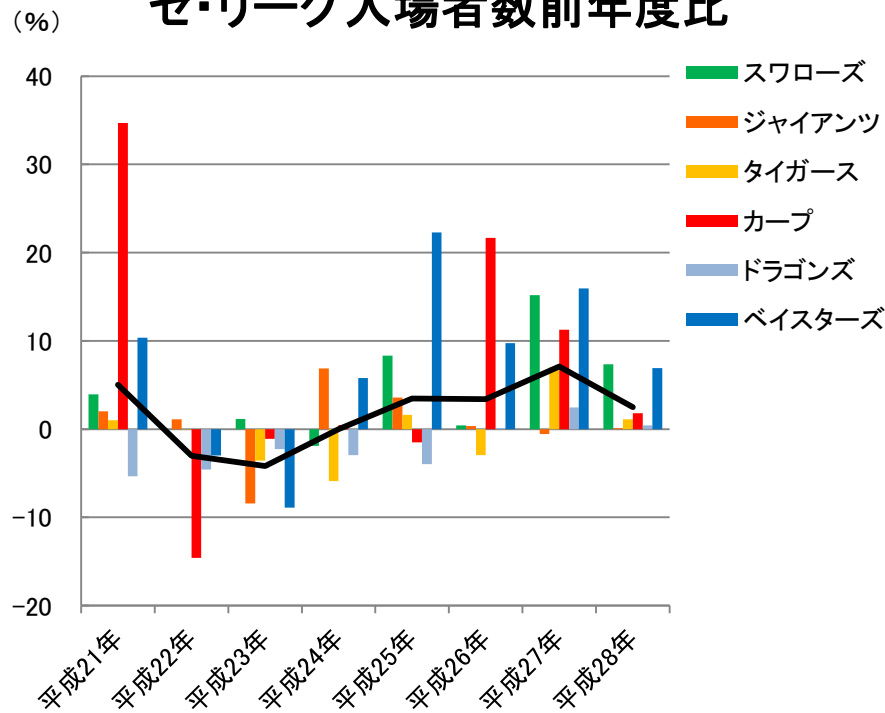
入場者数の推移

入場者数をリーグ別に見てみると、平成21年度にカープが大幅に増加しているのは、本拠地が広島市民球場からマツダスタジアムへ移ったことが考えられる。平成25年度ベ이스ターズの入場者数大幅増加の背景には平成24年に経営母体の変更となり、集客のための施策等が変わったことが考えられる。平成27年は優勝を逃したジャイアンツを除いたほか5球団で前年度比上昇となっている。各球団の入場者数はその年の勝ちぶり・順位に左右されていることが推測できる。

ホームゲーム1試合平均入場者数(セ・リーグ)



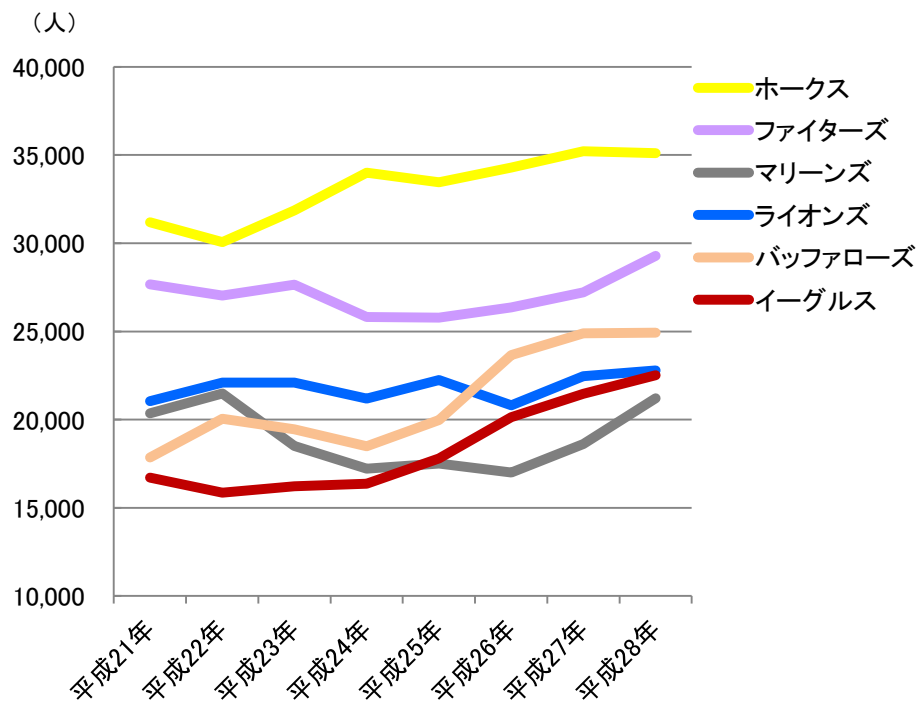
セ・リーグ入場者数前年度比



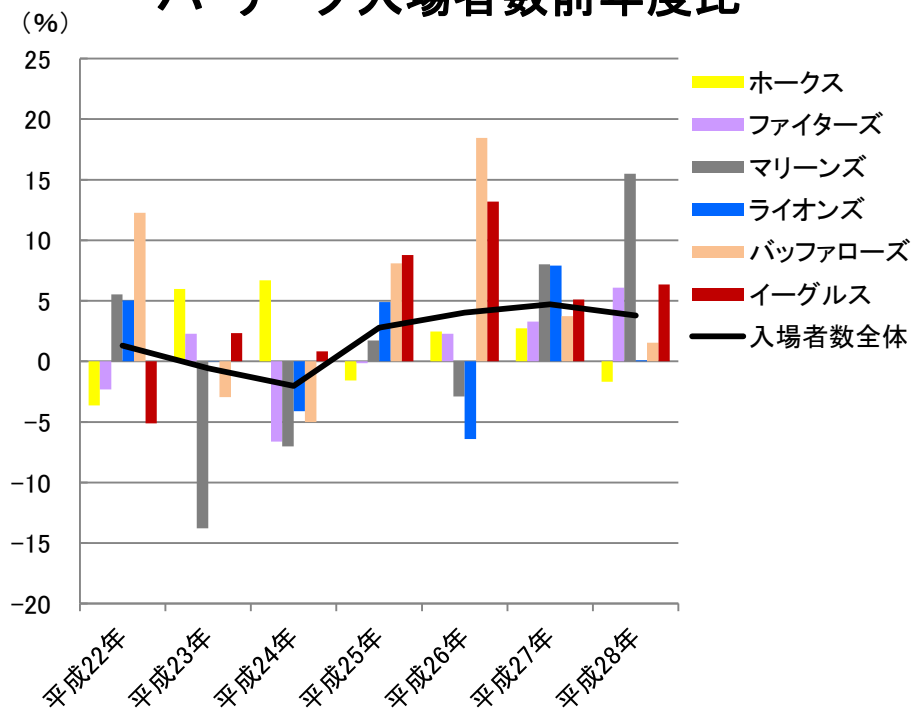
入場者数の推移

入場者数をリーグ別に見てみると、平成22年度のマリーンズの増加は下克上で3位から日本一になったことによるもの、平成25年度のイーグルスの大幅増加は初のリーグ優勝・日本一によるもの、平成26年度のバッファローズの大幅増加は、この年2位に入り、クライマックスシリーズに進出したことが考えられる。平成27年は全6球団で前年度比上昇となっている。セ・リーグと同様、各球団の入場者数はその年の勝ちぶり・順位に左右されていることが推測できる。

ホームゲーム1試合平均入場者数(パ・リーグ)



パ・リーグ入場者数前年度比

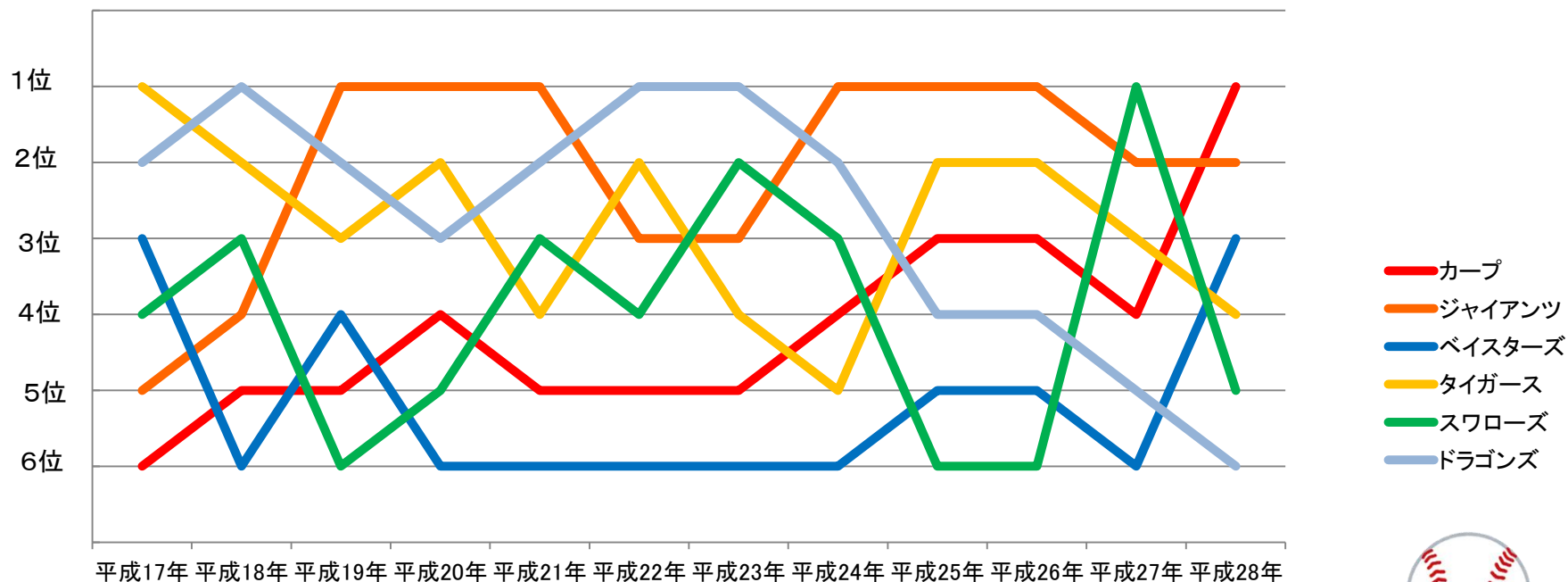


セ・リーグ最終結果の推移

セ・リーグの最終結果の推移を見てみると、ジャイアンツは平成19年以降Aクラスを維持している。優勝について見てみると、ここ2年連続で平成27年はスワローズが14年ぶり、平成28年はカープが25年ぶりと久方ぶりのリーグ優勝を果たした。また、平成28年は12球団で唯一クライマックスシリーズへの進出がなかったベイスターズが初の進出となった。

なお、セ・リーグ史上最速のリーグ優勝は平成2年9月8日ジャイアンツが東京ドームでスワローズに勝って優勝した時。

セリーグ最終結果の推移

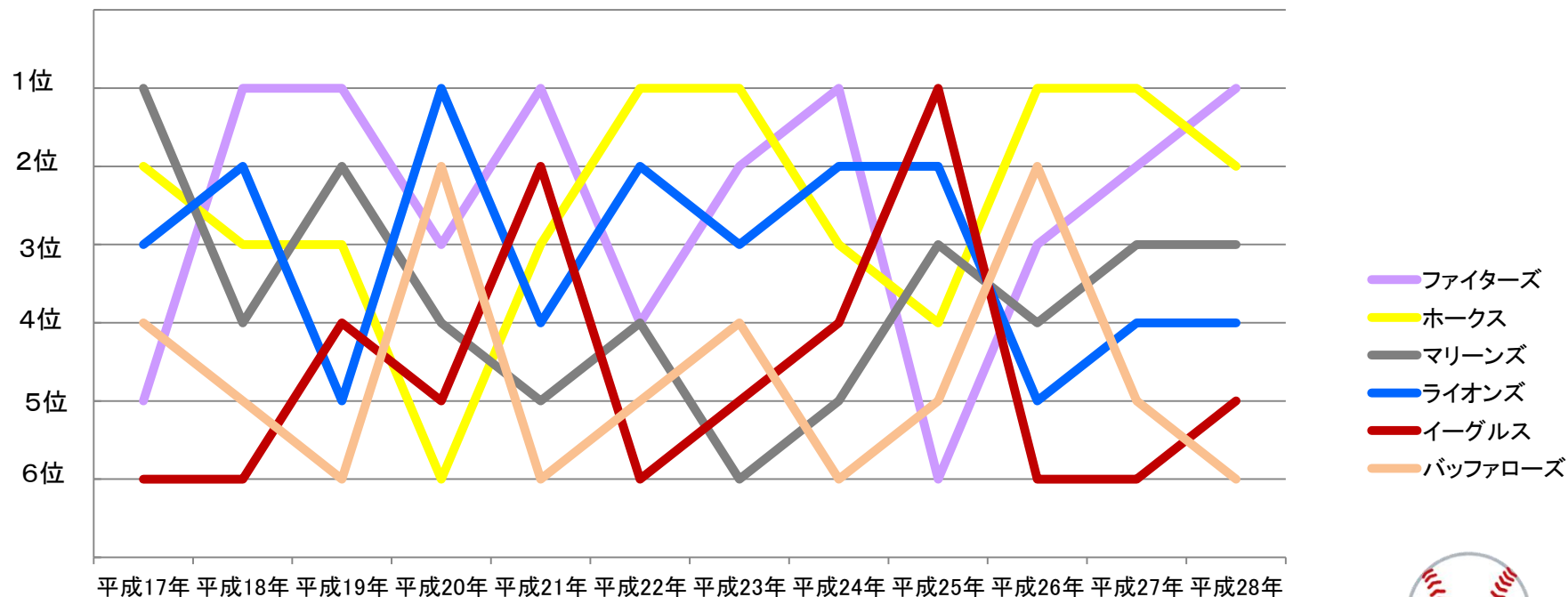


パ・リーグ最終結果の推移

パ・リーグの最終結果の推移を見てみると、セ・リーグに比べパ・リーグの方が順位の変動が大きい。優勝について見てみると、ここ数年はホークスが連覇を果たしている。平成28年はファイターズがシーズン後半に球団記録となる15連勝など驚異的な追い上げを見せ、最大11.5ゲーム差をひっくり返しての大逆転優勝となった。

なお、パ・リーグ史上最速のリーグ優勝は平成27年9月17日ホークスがヤフオクドームでライオンズに勝って優勝した時。

パリーグ最終結果の推移



前回カープがリーグ優勝した25年前との経済指標比較

平成28年はカープが25年ぶりのリーグ優勝を果たしたが、25年前、すなわち平成3年はどのような年だったのだろうか。

平成27年・平成28年（年結果ではなく最新結果）といった近時と25年前を比較した結果は以下の表のとおり。

平成3年の政治・経済としては、平成3年の政治・経済としては、ジュリアナ東京オープン的一方バブル崩壊、雲仙普賢岳の噴火、牛肉とオレンジの自由化開始、湾岸戦争勃発、ソビエト連邦崩壊、世界初のWorld Wide Webサイト開設など日本のみならず世界的にも色々なことが起きた年だった。

	優勝チーム		製造業 	サービス業 	株 	雇用情勢 					
	セ・リーグ	パ・リーグ	鉱工業指数	第3次産業活動指数	日経平均株価(円)	就業者 (万人)	完全失業者 (万人)	就業率 (%)	完全失業率 (%)	新規求人倍率	有効求人倍率
平成3年	カープ	ライオンズ	107.6	88.0	24298.2	6,369	136	62.4	2.1	2.07	1.40
平成27年	スワローズ	ホークス	97.8	103.2	19172.1	6,376	222	57.6	3.4	1.80	1.20
平成27年を平成3年と比較			-9.1	17.3	-5126.1	7	86	-4.8	1.3	-0.27	-0.20
平成28年	カープ	ファイターズ	97.8	104.1	16584.8	6,497	204	58.6	3.0	2.09	1.38

※平成27年と平成3年との比較について、鉱工業指数と第3次産業活動指数は平成3年比、日経平均株価、雇用情勢の各指標については平成3年との差。

※平成28年について、鉱工業指数、第3次産業活動指数、雇用情勢の各指標はそれぞれ最新(季節調整済)の結果。株価は1月～9月の平均。

※有効求人倍率については新規学卒者を除きパートタイムを含む結果。

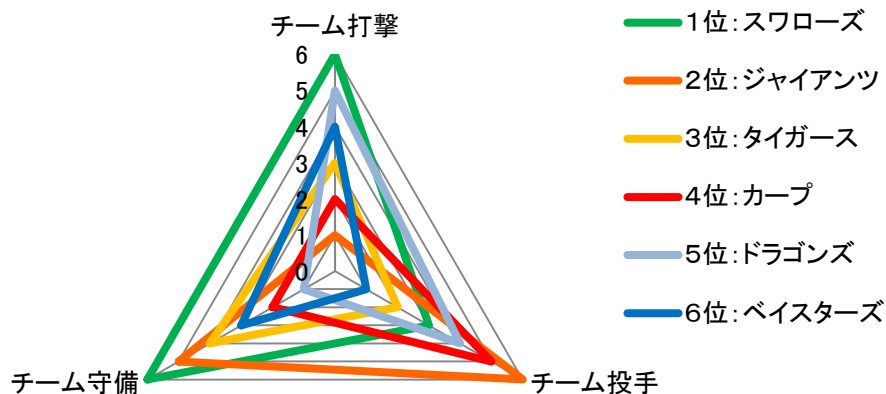
※各データの出典元:「鉱工業指数」、「第3次産業活動指数」(経済産業省)、「労働力調査」(総務省)、「一般職業紹介状況」(厚生労働省)、「Financial QUEST」(日経NEEDS)。

各チームの総合力比較（セ・リーグ）

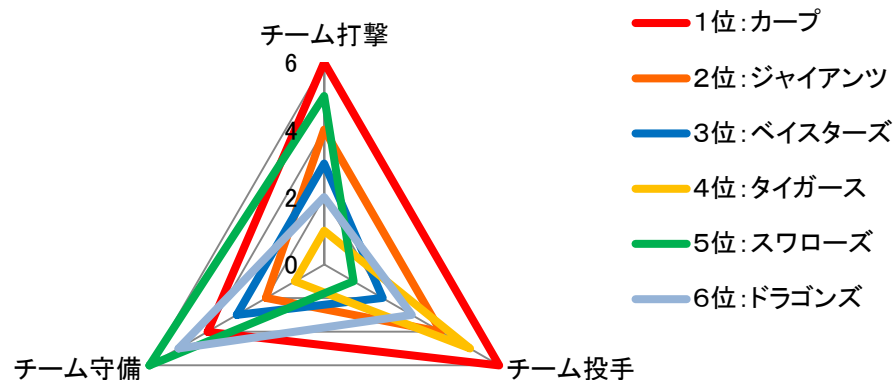
各チームの総合力を比較してみると、平成27年リーグ優勝のスワローズは打撃力と守備力でリーグトップ、投手力は3位と攻守のバランスが良かった。

平成28年リーグ優勝のカープは打撃力と投手力でリーグトップ、こちらも投打のバランスがチームを優勝に導いたことがわかる。他方、個人タイトルではカープの選手は少なく、特定の選手頼みではないチーム一丸の勝利であったと考えられる。

平成27年チーム成績(セ・リーグ)



平成28年チーム成績(セ・リーグ)



※平成28年セ・リーグ主要個人タイトル

首位打者：坂本 勇人（巨）、344、本塁打王：筒香 嘉智（横）44、

打点王：筒香 嘉智（横）110、盗塁王：山田 哲人（ヤ）30

最優秀防御率：菅野 智之（巨）2.01、最多勝利：野村 祐輔（広）16

最優秀救援(ホールド)：マシソン（巨）49、最多セーブ：澤村 拓一（巨）37

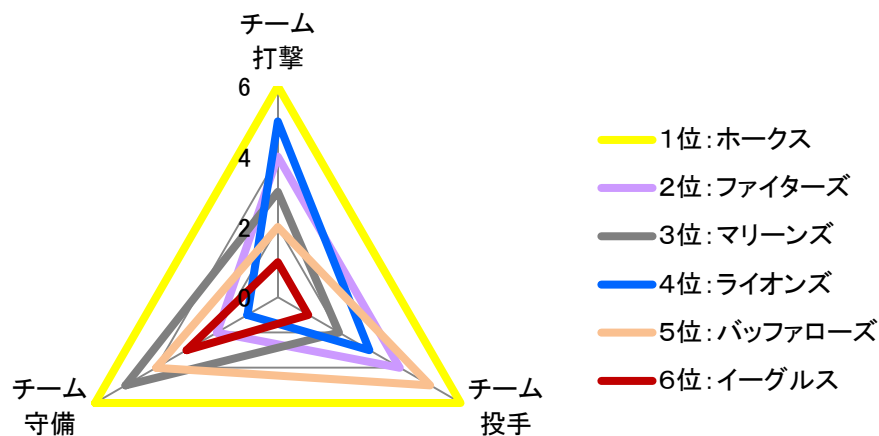
なお、山田哲人選手は日本プロ野球史上初の2年連続トリプルスリーを達成。

各チームの総合力比較（パ・リーグ）

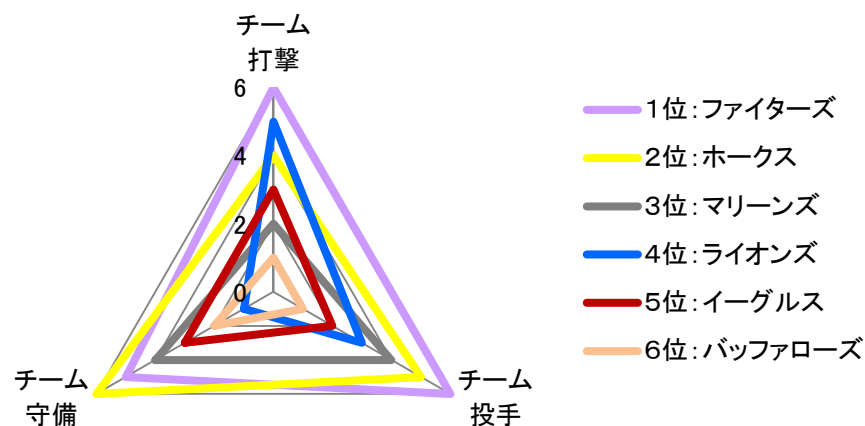
各チームの総合力を比較してみると、平成27年リーグ優勝のホークスは投・打・守いずれもリーグトップでバランス良く勝ったことがわかる。

平成28年に優勝したファイターズは、最後までホークスと競い合ったが、最終的には打撃力・投手力がリーグトップとなり、こちらもチームバランスの勝利だったことがわかる。個人タイトルでは、優勝したファイターズの選手が投打ともに主要タイトルを獲得している。

平成27年チーム成績（パ・リーグ）



平成28年チーム成績（パ・リーグ）



※平成28年パ・リーグ主要個人タイトル

首位打者：角中 勝也（口）、339、本塁打王：レアード（日）39、

打点王：中田 翔（日）110、盗塁王：糸井 嘉男（オ）・金子 侑司（西）53

最優秀防御率：石川 歩（口）2.16、最多勝利：和田 毅（ソ）15

最優秀救援(ホールド)：宮西 尚生（日）42、最多セーブ：サファテ（ソ）43

交流戦リーグ内順位と最終順位

交流戦の順位が最終順位と一致したかを見てみると、両リーグで大差はなく、五分五分といったところ。ちなみに交流戦リーグ内順位が最終順位と一致したのはトップがジャイアンツ、タイガースで6回、ファイターズなどが4回となっている。

交流戦順位が最終順位と一致

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	チーム別一致数
カープ	◎	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	◎	3
ジャイアンツ	×	×	◎	×	×	×	◎	◎	◎	◎	×	◎	6
ベイスターズ	×	×	×	◎	◎	◎	×	×	×	×	◎	×	4
タイガース	◎	◎	×	×	×	◎	◎	×	◎	×	×	◎	6
スワローズ	×	×	×	◎	×	×	◎	×	×	×	×	×	2
ドラゴンズ	×	×	×	×	×	×	◎	◎	◎	×	×	×	3
ファイターズ	◎	×	◎	×	×	×	×	◎	×	×	◎	×	4
ホークス	◎	×	×	×	×	×	◎	×	×	◎	◎	×	4
マリーンズ	◎	×	◎	×	×	◎	◎	×	×	×	×	×	4
ライオンズ	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	◎	×	◎	3
イーグルス	◎	×	◎	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	3
バッファローズ	×	×	×	×	◎	×	×	×	◎	◎	×	◎	4
セ・リーグ一致	2	1	1	2	1	2	4	2	4	1	1	3	24
パ・リーグ一致	4	0	3	0	1	2	2	1	1	4	2	2	22
両リーグ一致	6	1	4	2	2	4	6	3	5	5	3	5	46

資料:「日本野球機構」のデータより作成。

リーグ別で交流戦1位のチームが最終的に優勝したのは

平成17年 タイガース、マリーンズ
 平成19年 ジャイアンツ、ファイターズ
 平成23年 ドラゴンズ、ホークス
 平成24年 ジャイアンツ、ファイターズ
 平成25年 ジャイアンツ
 平成26年 ジャイアンツ、ホークス
 平成27年 ホークス
 平成28年 カープ



資料:「日本野球機構」のデータより作成。

プロ野球まとめ

- 近年プロ野球の人気は復活の兆し。
- 比較的セ・リーグよりもパ・リーグの方が最終順位の変動が大きい。ただし、セ・リーグもここ2年、平成27年のスワローズが14年ぶり、平成28年のカープが25年ぶり久しぶりの優勝が続いている。
- もちろん固定客・固定ファンはしっかりついている一方、入場者数・観客数はその年の成績によって左右される面もあることがわかった。
- よく交流戦の結果がシーズン最終結果に影響を及ぼすと言われることがあるが、全チームにあてはまる訳ではなく、チームによってはその傾向があるという程度。
- 当然のことかもしれないが、打・投・守がバランス良く備わっているチームはやはり強い。



こちら是非御覧下さい！

◎ ミニ経済分析：色々なテーマあります



ぜひお手持ちの電話で
QRコードを読み取って
下さい！！

◎ お役立ちミニ経済解説：
総合ポータルサイトです

お役立ちミニ経済解説

